

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑧

言葉に表しにくい、体のこと

リハビリテーション専門相談では障害を持つ方が入所、通所している施設の方からの相談を受けています。今回は3名の事例について紹介いたします。

50代の知的障害の女性 Aさんは膝が痛くて歩くことがつらい状況でした。膝が伸びず踵を浮かせて歩き、体重をかけにくい様子が見られました。膝を曲げた状態で立つのは負担が大きく、痛みの原因になります。脳性麻痺の影響で自分では膝の曲げ伸ばしが難しいため、一緒にボールを転がしながら膝の曲げ伸ばしを繰り返しました。



徐々に膝の動きが良くなり、踵を浮かせることなく歩くようになりました。通所施設でこの運動を続けることで、歩くことを嫌がらなくなりました。

座位姿勢の崩れについて相談も多くありますが、姿勢が崩れる原因は様々です。50代の知的障害の女性 Bさんは食事中に体が傾き、困っていました。入所施設に訪問して身体機能を評価すると、軽度の側彎があり自分では修正できずに倒れてしまっていました。お尻の下に手のひらを入れると傾きが減り姿勢が安定することが分かりました。傾く側のお尻の下にタオルを折って敷き少し高くして食事をしたところ、食事時の姿勢の崩れが改善できただけでなく、食事の量も増えました。

50代の高次脳機能障害の左片麻痺の男性 Cさんは、滑り座りとなり体は右へ左へ傾いて姿勢が崩れてしまっていました。この方はトイレの時間以外ほぼ1日中車椅子に座って過ごしていました。お尻や体が痛くなると、お尻を浮かせたり、体を傾けたりすることで苦痛を和らげようとしていたのですが、姿勢が崩れたまま戻れなかったようです。座クッションを厚いものに変更し、車椅子の背もたれを体に合わせるとともに、日中に横になる時間を作ることで姿勢の崩れは改善しました。

知的障害や高次脳機能障害のある方は自身の体の状態をうまく伝えることができず、本人とともに周囲の方々も困ることが多いようです。リハビリテーション専門相談では動作や身体と一緒に確認する過程を通じて、本人の身体を理解を深めます。言葉には表しにくい身体の悩みを持つ方の理解を深める手がかりをお伝えできるかもしれません。お気軽にご相談ください。

(平田 学)